



ハザードマップを見直しましょう

台風やゲリラ豪雨などにより、大雨に見舞われることがあります。
被害から身を守る方法をあらかじめ確認しておきましょう。

ハザードマップとは？

大雨によって河川が氾濫した場合や、下水道から水があふれた際に、浸水する恐れがある場所や避難場所を示した地図です。

水害には種類があります

水害には、大雨で河川がはん濫する「河川はん濫」と、雨水の排水ができずに浸水する「内水（ないすい）はん濫」があります。

河川はん濫とは

大雨によって河川から水があふれたり、堤防が決壊して水が流れ込んでくること。



【特徴】

- 長時間の大雨で起こりやすい
- 大きな被害になりやすい
- 河川の近くで被害が出やすい

内水はん濫とは

下水道や排水設備の容量を超えたり、河川の水位が高い時などに、雨水があふれ出すこと。



【特徴】

- 短時間での豪雨で起こりやすい
- 一瞬のうちに発生する
- 河川の近く以外でも被害が発生

発生する理由が違うので、ハザードマップも異なります。

洪水ハザードマップ

河川がはん濫した際に浸水が予想される場所や深さを示しています



内水ハザードマップ

下水道等から水があふれた際に浸水が予想される場所と深さを示しています

ハザードマップで確認すること

自宅を確認しましょう

浸水やがけ崩れが起こる可能性を
あらかじめ確認しておきましょう。

避難場所を確認しましょう

自宅周辺の適切な避難場所を
あらかじめ確認しておきましょう。



避難経路を確認しましょう

水路や橋、アンダーパスなどは危険
です。別のルートを探しましょう。

2種類とも確認しましょう

必ず洪水のハザードマップと
内水のハザードマップの両方を
確認しましょう。

ポイントは「早めの避難」



河川のはん濫が予測される時

大雨が予測される段階で準備をして、早めに安全で丈夫な建物へ避難します。
(建物ごと流されてしまう恐れもあります。)

内水はん濫が予測される時

あっという間に水があふれてしまうので、すぐに高い場所へ避難します。
(建物の上階に避難すれば安全を確保できます。)

20cm程度の水深でも、歩行が困難になることがあります。

また、漂流物にぶつかりけがをする恐れもあります。

夜間は特に足元が見えづらく、障害物に気づかずに危険です。

河川のはん濫でも、内水はん濫でも、安全なうちに早めの避難が重要になります。

参考：「トクする防災」（日本気象協会）ホームページ

「内水ハザードマップ」「川崎市洪水ハザードマップ」（川崎市）